

6. むすび

本年度は、給水人口は減少しつつも給水戸数は増加し、年間総配水量では、3.7 ポイント、有収水量では、3.1 ポイントそれぞれ前年度より増加している。給水収益は前年度に比べて 80,370 千円（6.9%）減額の 1,080,450 千円となっている。一方で、営業外収益は前年度に比べて 118,479 千円（91.8%）の増額となっている。これは、給水収益が新型コロナウイルス感染症に係る生活支援施策としての料金減免により 113,165 千円減少したこと、それに対して市一般会計からの繰入金 126,182 千円が営業外収益の雑収益に計上されたことによるものである。

また、総収益は 1,397,633 千円で前年比 45,615 千円増加し、総費用は、1,373,061 千円で前年比 64,010 千円増加しており、結果として昨年度と比べ 18,403 千円減の 24,572 千円の当年度純利益を計上し、前年度繰越利益剰余金 1,903,864 千円とその他未処分利益剰余金変動額 105,923 千円と合わせ 2,034,359 千円が当年度未処分利益剰余金となっている。

財政状態を見ると、流動比率は昨年度より下降しているものの依然良好な状態にはあるが、営業収益の給水収益が減少傾向にある一方で減価償却費や企業債償還費等が増加する傾向にある。

今後も厳しい事業経営が続くなか、事業費の削減、資産の効率的な運用により、さらに効率的、効果的な事務事業の運営を図り、事業経営の安定化に努めていただくとともに、引き続き安心安全な水の供給に努めていただきたい。

<今後の事業運営にあたり、以下の意見を申し添えます。>

1. 有収率は 98.4%と高い数値を示しているが、収益につながらない漏水等が経営的にも問題となる。漏水の早期の発見・復旧を推進し、今後もその実効性に期待するとともに、積極的に漏水対策に取り組んでいただきたい。
2. 漏水の原因として管路等の老朽化もあげられ、水道施設設備計画に基づき老朽化した管路等の更新・耐震化を推進する必要があるが、その業務量や事業の平準化、効率的な整備計画を図っていただきたい。
3. 第 6 次拡張事業は完了したところだが、施設の整備計画は長期間で費用も多額になることから、建設改良積立金の拡充が重要となってくるため、今後も利益確保に努めていただきたい。
4. 本年度に完成した私市ポンプ場に係る減価償却費をはじめ、企業債の償還などは、事業経営に与える影響は大きいものと考えられる。そのためには事業費用の削減、資産の効率的な運用を図っていただきたい。
5. 新型コロナウイルス感染症の発生から 1 年半ほどが過ぎ、その影響は計り知れないものがあつた。これからも特殊な事情の中での事業運営となるが、水道ビジョンに則り、持続可能で健全な水道事業の運営に努めていただきたい。

以上の事項について、改善検討されることを望むものである。